

第1回常滑市地域公共交通協議会

1 開催結果

日 時 2022年6月23日(木) 9時45分～11時45分

場 所 常滑市役所 3階委員会室

出席委員 別添出席委員名簿を参照

2 議事概要

(1) 報告

●役員の選任について

- ・事務局から協議会の役員の選任について報告。
- ・設置要綱の規定により、会長は常滑市副市長 山田朝夫をもって充てる。
- ・設置要綱の規定により、副会長・座長は、会長が大同大学教授 嶋田喜昭委員を、監事は、会長が常滑市教育長 土方宗広委員を指名。

(2) 議題

① [承認事項] 協議会の運営にかかる規程の制定について

- ・事務局から、常滑市地域公共交通協議会財務規程、常滑市地域公共交通協議会委員等の報酬及び費用弁償に関する規程の案を提示。

【採決】

原案を承認(異議なし)

② [承認事項] 2022年度予算(案)について

- ・事務局から、2022年度予算(案)を提示。

【採決】

原案を承認(異議なし)

③ [説明事項] 常滑市地域公共交通協議会について

- ・愛知運輸支局様及び事務局から、本協議会設置の背景や目的等を説明。

【質疑応答】

Q. 公共交通について通勤・通学や観光需要といった記載があるが、「公共交通」において「生活の足」といった面はどうか。

(事務局)

生活者の足という面も、当然必要であると認識している。協議会の中で意見を踏まえながら、計画策定を進めていきたい。

④ [説明事項] 常滑市地域公共交通計画について

- ・事務局から、地域公共交通計画の策定について説明。

【質疑応答】

Q. 現在、常滑市に地域公共交通のマスタープランや宣言のような考え方はあるか。
(事務局)

現在、市ではそのような計画や宣言はない。

Q. 地域公共交通協計画と、昨年度議論を重ねて策定した観光戦略等との関係性は。
(事務局)

地域の公共交通を、住民の足だけではなくて、観光客にも使ってもらう、という考え。

Q. 次の議題にある(仮称)ポートルースファンバスは、現状、セントレアに乗入れる予定でないようだが、観光戦略の中で、内陸部の観光地とセントレアを結ぶことも議論があったので、今後、その点も加味して検討していただきたい。

(事務局)

今後、その点も含めて検討していく。

Q. 公共交通計画の中で、AI、人工知能による配車システムなど、高額な投資が必要なものもある。交通事業者は厳しい環境にあり、導入は容易ではない。地域公共交通計画で、ハード、ソフトどちらを主体とするか、によっても交通事業者は向き合い方が変わってくるのではないか。

(事務局)

当然、地元交通事業者の意見は重要と考えている。その意見を踏まえて進めていきたい。

Q. 現に公共交通がある地域だけでなく、交通空白地帯の洗出しや、近隣市町等での公共交通の在り方等を踏まえた取組みが必要。そういったことを踏まえ、この協議会自体が何を求めるか、ということ考えてもらえれば。

(事務局)

地域の全ての輸送資源を活用し、現在の空白地帯を含めて、全域をカバーしていくことが第一の目的と考えている。

Q. この協議会のゴールは、協議した内容を成果的なものとして、市に提言するという形か。

(事務局)

委員の皆様の意見を踏まえながら、事務局から計画の素案を段階的に示していく。その過程で、バスの利用状況や市民アンケートを基にした「市民のニーズ」のようなものも示すので、それも踏まえて委員の皆様から意見を出していただき、計画を詰めていきたい。

Q. 色々なことを踏まえた案が事務局から出され、それをたたき台に委員が議論し、協議会の同意を得て、段階的に進めるというイメージか。

(事務局)

お見込の通り。

⑤ [承認事項] (仮称)ポートルースファンバスの運行再開とそれにもなう知多乗合・常滑南部線等の廃止について

・事務局から、10月1日から運行を再開する(仮称)ポートルースファンバスの概要、及びそれにもなう知多乗合・常滑南部線等が廃止することについて説明。

【質疑応答】

Q. 今回ファンバスに置換えることになった経緯について説明をお願いします。

(事務局)

ポートレース事業局で10月1日からファンバスの運行を再開するにあたり、コミュニティバスのように動かすことを検討する中で、市・北部バス、知多乗合・常滑南部線も包括する形での展開をすることになった。

そのうえで、重複する区間が二重投資となるため、ファンバスに一本化する方針に至った。

Q. お年寄り等は、乗り物や見た目、運行目的等が変わることで戸惑うこともある。ファンバスでもあり、生活の足として使えることも、周知やPRを丁寧をお願いしたい。

(事務局)

詳細が固まった段階で、北部バスの車内などでチラシ等を配布する。

PRをしっかりとしていきたい。

Q. 置換えとなる区間のバス停は大きく変わらないか。

(事務局)

バス停自体は、原則現行の場所のまま置換える。

Q. 民営バスは公費で運営されるバスに負けてしまう傾向があるため、両者が存続するための役割分担も重要。ファンバスと知多乗合・半田・常滑線で一部重複する区間があるが、現在の利用状況はどうか。

(事務局)

手持ち資料では次のとおり。

2019年度…常滑南部線 2.0人／半田・常滑線 2.5人

2020年度…常滑南部線 1.5人／半田・常滑線 3.0人

2021年度…常滑南部線 0.5人／半田・常滑線 1.0人

Q. こうした会議体は、1つの市町村の中の話が中心になりがちなので、今回、武豊町と美浜町が参加していることは良いこと。病院の経営統合の話もあるので、将来的には半田市も、一緒に話し合っていると良いのではないか。

(事務局)

今後、半田市も含めた広域での協議も検討させていただく。

Q. 29人乗りバスを6台導入する根拠は何か。

(事務局)

ポートレースの6艇から着想したアイデアが検討のスタート。

補足

着想自体は「6艇」からスタートしたもののだが、市・北部バスと知多乗合・常滑南部線を包括して置換え、かつ市街地ルートの運行本数を確保するのに、6台が必要十分な台数。

Q. 運行事業者の選定にあたっての考えやスケジュールはどうか。

(山口委員)

10月に運行を開始するため、これまでの経験も勘案し、既存のバス停を活用できる知多乗合をお願いするしかないと考えている。

Q. 今回提示された運行ダイヤは決定事項ということか。

(事務局)

ほぼ決定のもの。ひとまずこの案で運行を開始したい。

Q. 常滑駅での普通列車との接続があまり良くないようだが、その点どうか。

(事務局)

今後の検討のベースとして今回の案で運行を始め、利用状況や協議会の意見を参考に、次の見直しの際に検討していきたい。

Q. ファンバスの運行目的にボートレース関連施設への来場促進とある一方、コミュニティバスのように住民・観光客の誰でも利用可能となっているため、少し齟齬を感じる。ファンバスの利用目的と実際の運用との整合性の検討が必要ではないか。

(事務局)

昨秋のボートレース場リニューアルで、「モーヴィとこなめ」という親子向け施設も併設した。ボートレースを楽しむ来場客だけでなく、関連施設の利用促進を図りつつ、地域貢献事業としても位置付けている。

(山口委員)

ボートレース業界は売上げが好調でもあり、どこのレース場も地域貢献を行っている。

常滑もその一環として、ファンバスを活用した地域の足の確保を実施する。ボートレースの経費で運行する以上、ボートレース場や関連施設への誘客が第一の目的になるが、住民・観光客の皆様にも利用してもらいたい。

Q. 運賃について当面の間無料とあるが、事務局で考えている時期や期間の目安はあるか。

(事務局)

協議会での意見も踏まえて運賃等も検討する。

補足

現時点で確定している期間はないが、少なくとも 2022 年度いっぱい(2023 年 3 月)までは、「当面の間」として無料で運行する予定。

Q. 常滑市の今後のコミュニティバス施策は、ファンバスをベースに、より良いコミュニティバスを考えていく、ということか。

(山口委員)

その通り。一定期間はボートレースの経費でやっていく。今後、交通空白地帯にも対応していく場合には、市と協議していく必要もある。

Q. ボートレース関連施設への誘客の中で、セントレアにも場外舟券売場があるので、そこにも路線を伸ばす考えはあるか。

(山口委員)

当該舟券売場の状況から、鉄道も接続していることから、新たにバスで誘客する考えは現時点ではない。

Q. ボートレース場の「モーヴィとこなめ」、イオンモールの「きゅりお」、セントレアの「フライング・オブ・ドリームス」という親子向けの 3 施設で連携した取組みの中で、セントレアも含めて巡るルートになると良いと思う。

(山口委員)

3施設がタイアップし、エリアとしてPRしていくことはポータル事業局の事業計画にも入っている。

Q. セントレアと市街地の間は、路線バスが走っている。無料のファンバスの乗入れを検討する場合は、役割分担の面からも、慎重に検討いただきたい。

(筒井委員)

現在、セントレアとイオンモール常滑の間を運行している無料シャトルバスを踏まえた提案。民営路線バスとはバランスをとりながら考えていきたい。

Q. ファンバスでありながら、住民の足でもある、ということが少し伝わりにくい。そのうえで、利便性の議論についてはこれから、という段階のように感じる。今回色々な案や意見が出てきているが、今後の議論の中で、やはり主体は地域住民でないか、と思う。

(筒井委員)

当然、地域住民の方というのは大事な話。ただセントレアも地域に根差して、一体で盛り上げたいという思いがあるので、そういう点で検討をお願いした。地域住民とどちらかを、という趣旨ではないことを申し添えたい。

Q. 観光客というワードがあるが、土日と平日でダイヤやルートが変わらない。ファンバス、住民輸送、観光客と並んでいるが、実際の計画がそれぞれに合っていないため、議論がずれる、違和感になっているかと思う。

(事務局)

計画策定において、色々なキーワードが並び、実態とかみ合わない部分がある、といった意見を踏まえて進めたい。

観光も市としても重要だが、地域の方の足というのも最重要と考えている。総合的に何が必要かということをしっかり見極めながら、計画を策定していきたい。

Q. 質問ではないが、今回の運行等や今後の計画の検討にあたっては、ドライバーの待遇などにも配慮をいただきたい。

(事務局)

意見として受止めさせていただく。

Q. 北部ルートをまわる順番は決定したものか。

(事務局)

全体のルートの中で検討したもの。10月の開始時はこれで始めたい。今後の協議を踏まえて見直していきたい。

Q. 多屋団地への乗入れは技術的に難しいのか。今後でルートに入ることは考えているか。

(事務局)

多屋団地の件はですね、バスのサイズ等や停留所の場所など、ハードルがある。検討するには実地の状況確認や、地元と相談させていただく必要がある。次の見直しで乗入れが可能か検討したい。

【採決】

承認(否とする委員なし)

※ 知多乗合・常滑南部線等が廃止になることにつき、市が県バス対策協議会に「支障なし」の旨意見を提出することの可否

以上